

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00949

研究課題名(和文)種の人類学的転回：マルチスピーシーズ研究の可能性

研究課題名(英文)Anthropological Turn of Species: A Possibility of Multispecies Studies

研究代表者

奥野 克巳 (Okuno, Katsumi)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：50311246

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、複数種の絡まり合いに照準をあてるマルチスピーシーズ研究の枠組みの中で、人間をその中の一種と捉え、人間について再考した。国内外でのフィールドワークに基づき、また環境人文学という枠組みにまで広げて、5年間で55回の研究会を開催し、その途中経過・成果を機関誌『たぐい』Vol. 1.～Vol. 4.に発表した。成果論集としては、『コロナ禍をどう読むか』(奥野克巳・近藤祉秋・辻陽介編)、『モア・ザン・ヒューマン』(奥野克巳・近藤祉秋・ナターシャ・ファイン編)、『マンガ版マルチスピーシーズ人類学』(奥野克巳・シンジルト・MOSA編)、『食う、食われる、食いあう』(近藤祉秋、吉田真理子編)を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2000年代以降に、「人新世」という新しい地質年代が唱えられるようになった。そのことは、地球環境の悪化が、人間の手によるものだとする意識の高まりと重なる。人新世に対する文化人類学からの応答の一つは、ヒトを、他の生物種から孤立した例外的な種ではなく、多種の中にあって、絡まり合って生存と繁栄を築き上げてきたと捉えるマルチスピーシーズの視点の導入であった。本研究は、マルチスピーシーズ研究の可能性を探ることにあつた。マルチスピーシーズ研究は近年、アートとの連携や社会的実装においても行われてきており、本研究は、それらを含めマルチスピーシーズ思想の広がりを見る上での基礎研究と位置づけられるだろう。

研究成果の概要(英文)：This study project reconsidered humans as a species among diverse species within the framework of multispecies studies, which focuses on the entanglement of multiple species. Based on fieldwork in Japan and overseas, and expanding into the framework of environmental humanities, we have hosted 55 meetings of the Multispecies Anthropological Society over the past five years, and published the progress and results in the journal "Tagui[Kinds]" Vol. 1. to Vol. 4. The collections of the results include "Corona-Ka wo Douyomuka[How to Read the Covid-19 Disaster]" (edited by K. Okuno, S. Kondo, and Y. Tsuji), "Moa zan Hyu-man[More Than Human]" (edited by K. Okuno, S. Kondo, and N. Fine), "Manga ban Maruchisupi-shi-zu Jinruigaku[Manga Version of Multi-species Anthropology]" (edited by Katsumi Okuno, Shinjirut and MOSA), "Kuu, Kuwareru, Kuiau [Eat, to be Eaten, to Eat Each Other]" (edited by S. Kondo and M. Yoshida).

研究分野：Cultural Anthropology

キーワード：マルチスピーシーズ人類学 文化人類学 環境人文学

## 1. 研究開始当初の背景

19 世紀半ば、ダーウィンは『種の起源』を公表し、「種」に明確な境界線などないことを示した。種が変種に、変種が別種に変化するるのであれば、種とは絶えざる動態であり、種の完全な分類は不可能であることが示された。進化論のアイデアは、人間は他の動物種とは異なる進化の段階にあることを明確にし、人間を対象とする文化人類学の興隆を促した。20 世紀に入ると、文化人類学は、もっぱら人間行動の文化的な多様性を記述する学問分野となった。文化人類学は、文化相対主義を掲げ、植民地主義が終焉した 20 世紀後半の世界で大きな影響力を持つようになる。その間、象徴人類学や生態人類学が他の生物種に目を向けたが、1990 年代以降、文化を書く自らのあり方を猛省する「再帰人類学」の隆盛を経て、近年、文化人類学は、他の生物種との関係において人間を取り上げようとしているという状況があった。それは、「種の人類的転回」というべき学問的潮流に他ならない。

奥野克巳らは、「人間と動物の関係をめぐる比較民族誌研究」(H20～23 年度、科研費基盤 B(海外))、「動物殺しの比較民族誌研究」(H24～28 年度、科研費基盤 A(海外))を組織して、人間と動物の関係に着目しながら調査研究を行ってきた。その中で、人間は動物に対して主体として安定した立場にあるだけでなく、時には、他の生物種にとっての客体ともなり、種と種の相互の関係において人間は人間たり得るという事実気づくようになった。それは、人間を含む生物種が他の生物種「とともに生きている」と捉え、人間と他の生物種との関係の新たな見方を提起したハラウェイらの「動物的転回」のアイデアにつながっていた。

研究開始当初には、人間を超えた広がりから人間について考える「人間以上の人類学」へと変貌しつつある文化人類学の中心に、異種間の創発的な出会いを取り上げる「マルチスピーシーズ民族誌」が、2010 年以降に欧米で盛んになりつつある状況があった。アメリカの Cultural Anthropology 誌は 2010 年に 4 論文から成るマルチスピーシーズ民族誌特集を組み、2016 年には、アメリカの Environmental Humanities 誌が 8 論文から成るマルチスピーシーズ研究特集を組んだ。

同時期に、人間と他の生物種をともに思考する「自己」として捉えたコーンの民族誌(『森は考える』2016、原著 2013)、グローバル資本主義による改変後の自然を構成する松茸と人間の関係を論じたチンの研究(Tsing, A.L. The Mushroom at the End of the World. 2015、後に 2019 年『マツタケ』として邦訳)、意識を持つ存在としての養殖鮭を扱ったリーンの研究(Lien, M.E. Becoming Salmon. 2015)など、重要な研究が次々に発表されてきていた。また日本国内では、2016 年 5 月に「マルチスピーシーズ人類学研究会」が発足したばかりであった。

## 2. 研究の目的

本研究では、文化人類学を理論的基礎としながら、複数種の絡まりあいに照準をあてるマルチスピーシーズ研究の枠組みの中で、人間を複数種の中の種と捉え、「人間であること/人間になること」とはいかなることかを記述・検討し、人間について再考することを目的とした。

今日、人間による人間のための「人間中心主義」的な自然改変の行き過ぎが改めて問われてきている。学問においても、21 世紀に入って、「種」としての人間が、ここ数百年の間に地球生態系を激変させたことに着目し、完新世に代わる新たな地質年代として「人新世」が提唱され、議論されるようになった。こうした潮流を受け、文化人類学は、その主要な研究対象である「人間」の概念を再検討し、新たな人間観を構築する必要に迫られており、マルチスピーシーズ民族誌は近年、文化人類学の調査手法を駆使しつつ、人間を複数種との創発的な出会いによって生みだされる種と捉えなおし、そのあり方を探究する新たなジャンルとして登場してきた。それらを踏まえて、本研究の目的は、「人間」を再考する新しいマルチスピーシーズ研究の発展に寄与することであるとした。

## 3. 研究の方法

本研究では、海外および国内における各々のメンバーの研究対象地で、人間を含む異種間の創発的な出会いに関して参与観察および文献研究を行って、それらを【1】[異種間関係の動態]、【2】[種をめぐる科学と政治]、【3】[複数種の意志疎通]という 3 次元に拠りながら班として組織し、綿密に民族誌の中に記述考察することを目指した。

また、それらのマルチスピーシーズ研究を、それを含むより大きな学際的な枠組である【4】[環境人文学]との連携・協働により、理論的により精緻化するために、研究集会を開催することを目指した。【4】は主に【統括班】が担い、【1】～【3】班の統合と研究成果発信の役割を担うこととした。

研究代表者は、全体の運営と調整を行い、研究分担者は、統括班と連携し、班長として班活動

を統括するとした。当初の予定では、対象国や地域の事情などの何らかの事由により、研究が計画どおりに進まない場合は、研究代表者・研究分担者で協議し、研究目的に適うように修正をはかるとした。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究会の開催

研究の途中経過・成果を研究会での口頭発表をつうじて発表し、意見・情報交換を頻繁に行った。当科研開始の前年に発足した「マルチスピーシーズ人類学研究会」を引き継いで、2017年度第7回研究会から2021年度までの5年間に、第7回から第61回まで、計55回の研究会を開催した。これらの研究会をつうじて、本科研の課題およびそれに関わる様々なトピックに関して、多様な観点からディスカッションしながら、研究を進めることができた。このことは、本科研における一つの成果である。以下は、研究会の記録である（2017年度以降）。

7. 「科学研究費補助金基盤研究Aプロジェクト「種の人類的転回：マルチスピーシーズ研究の可能性」2017年度研究集会」(2017年5月26日)
8. みんぱく共同研究・若手「消費からみた狩猟研究の新展開」共催研究会(2017年7月29日)
9. 早稲田大学高等研究所との共催研究会(2017年10月14日)
10. 信州大学・金沢謙太郎研究室との共催研究会(2017年10月30日)
11. 「ディヴィッド・エイブラム著『感応の呪文：人間以上の世界における知覚と言語』を読む～訳者・結城正美さんを囲んで～」(2017年12月1日)
12. 「Arts of Living on a Damaged Planet を読む」(2017年12月9日)
13. 「人新世の漁業管理と複数種の関係：環境人文学からのパースペクティブ」(2017年12月10日)
14. 「二元論を考える」(2017年12月25日)
15. 「『環境人文学』I,II 合評会・検討会」(2018年1月27～28日)
16. 「インゴルド的なものの人類的現在」(2018年2月26日)
17. 「犬と人の関わり」(2018年4月21～22日)
18. 「環境文学/環境人文学を読む」(2018年5月19日)
19. 「肉のポリティクス 人獣関係における産業化・権力・宗教」(第五二回日本文化人類学会研究大会・分科会として開催)(2018年6月3日)
20. 「マルチスピーシーズ民族誌の近年の成果から」(2018年10月20日)
21. 「『実在への殺到』の波紋」(STEM・メタフィジック研究会との共催)(2018年10月21日)
22. 「上妻世海『制作へ』を読む」(2018年11月18日)
23. 「食と肉の種の転回」シンポジウム(2018年12月8日)
24. 「ジビエブームを科学する」(宮崎大学農学部との共催)(2018年12月14日)
25. 「ドメスティケーションを複数種化せよ」(2019年1月17日)
26. 「種社会の記述法をめぐって」(2019年1月18日)
27. 「農と自己～『個体としての十全さの最果て』～」(2019年4月8日)
28. 「アニミズムの新生に向けて～人類学と民俗学の試みとして～」(2019年5月31日)
29. 「ケアの共異体」(2019年6月27日)
30. 「人類学の「制作論的転回」は可能か？」(2019年7月1日)
31. 「北方の犬ゾリ文化～動物行動学と文化人類学の視点から～」(2019年7月13日)
32. 「マルチスピーシーズ人類学と民族誌」(2019年7月28日)
33. 「シンポジウム『モア・ザン・ヒューマン』」(2019年12月7～8日)
34. 「『イメージの人類学』とサーリンズのアニミズム論」(2020年1月29日)
35. 「動物論の今日～『現代思想からの動物論』と『聖なるズー』を読む～」(2020年2月15日)
36. 「人獣関係の動態 人間の知を凌ぐ動物たちの行動がもたらす世界」(2020年2月16日)
37. 「COVID-19を分野横断的に考える」【1】他者としてのウイルスをめぐるマルチスピーシーズ人類学」(2020年4月2日)
38. 「COVID-19を分野横断的に考える」【2】接触と隔離の「あいだ」を考える 「コロナの時代の愛」をめぐって(2020年4月17日)
39. 「COVID-19を分野横断的に考える」【3】緊急事態宣言下の生と権力(2020年4月24日)
40. 「COVID-19を分野横断的に考える」【4】哲学と比較思想からCOVID-19を考える(2020年4月25日)
41. 「COVID-19を分野横断的に考える」【5】ケアが「閉じる」時代の精神医療 心と身体の「あいだ」を考える(2020年5月12日)
42. 「COVID-19を分野横断的に考える」【6】隔離され、画像化された二つの「顔」、その「あいだ」で ハンセン病絶対隔離政策とオンラインの顔貌から考えるコロナの時代の生とコミュニケーション(2020年5月21日)
43. 「COVID-19を分野横断的に考える」【7】パラドクシカルな「共生」の技法 歴史と神話の「あいだ」で問う共異体の形(2020年5月29日)

44. 「COVID-19 を分野横断的に考える」【8】グローバルとローカルの来たるべき「あいだ」へ  
プラネタリー・アーバニゼーションと科学批判学が見据える第三の道 (2020年6月5日)
45. 「人類学とマンガ～民族誌における文字とイメージの覚醒に向けて～」(2020年6月12日)
46. 「環境人文学の/というフィールドへ～『フィールド科学の入口 文学の環境を探る』合評会  
～」(2020年7月5日)
47. 「インゴルド『人類学とは何か』を読む～能作文徳×上妻世海に聞く～」(2020年7月16日)
48. 「マンガの越境力とその源泉」(2020年8月17日)
49. 「絡まり合う種と人間～日本におけるマルチスピーシーズ人類学の新展開～」(2020年9月  
18日)
50. 「自然/他者と相渉る：環境と 想像力 に向けて絡まり合う種と人間～」(2021年1月24  
日)
51. 「マタギと人類学者：自然と社会の<距離>を考える」(2021年2月14日)
52. 「マルチスピーシーズ民族誌とマンガ：人間と動物の境界線を溶かす物語世界～」(2021年5  
月15日)
53. 「参与と生命Ⅰ 生きる場とともにたしかめる知を巡らせる」(2021年6月13日)
54. 「21世紀文化人類学の波紋と影響～言語人類学、妖怪研究、エコクリティシズムから考える  
～」(2021年6月27日)
55. 「参与と生命Ⅱ 個/体を超越る、その手前とかなた」(2021年9月29日)
56. 「参与と生命Ⅲ 土の思想、科学とアート、参与しつつ消えていくために」(2021年10月  
31日)
57. 「アートと人間的なるものを超えた人類学～展覧会「大地の声をたどる」をめぐる～」(2021  
年8月9日)
58. 「参与と生命Ⅳ 変容する参与、試行する生命」(2021年11月21日)
59. 合評会『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』(2022年2月5日)
60. 「二辺を離れる：『今日のアニミズム』をめぐる鼎談」(科研費 基盤C「仏教論理学の比較論  
理学・比較哲学的研究：学際的研究のための基盤構築」との合同企画)(2022年3月2日)
61. 「《道祖神リプレゼンテーション》をめぐる」(2022年3月12日)

## (2) 『たぐい』の発行

マルチスピーシーズ人類学研究会における口頭発表やそこで扱ったテーマに関して、それら  
の途中経過や研究成果を公表し、世に問う媒体として、亜紀書房の協力により、2018年度から4  
年間にわたって機関誌『たぐい』を発行した。以下、各号の執筆者のリストである。

Vol.1. 2019年3月28日発行

執筆者：奥野克巳・シンジルト・近藤祉秋・東千茅・石倉敏明・上妻世海・近藤宏・逆巻しとね・  
椎名登尋・辻村伸雄・山田仁史・ナターシャ・ファイン

Vol.2. 2020年2月4日発行

執筆者：吉村萬壱、上妻世海、近藤祉秋、石倉敏明、奥野克巳、中上淳貴、甲田烈、工藤顕太、  
シンジルト、磯田和秀、赤嶺淳、大村敬一、MOSA

Vol.3. 2021年2月11日発行

執筆者：近藤祉秋、石倉敏明、大小島真木、管啓次郎、津田敦、金子遊、古川不可知、奥野克巳、  
上妻世海、能作文徳、清水高志、足立薫、逆巻しとね、井上太一、シンジルト、MOSA

Vol.4. 2021年10月4日発行

執筆者：箭内匡、奥野克巳、石倉敏明、近藤祉秋、塚原東吾、福島勲、中江太一、唐澤太輔、野  
田研一、シンジルト、結城正美、MOSA

## (3) 主要成果出版物の発行

本科研の研究成果としては、以下の4点の成果出版物を出版した。

奥野克巳・近藤祉秋・辻陽介共編『コロナ禍をどう読むか 16の知性による8つの対話』亜  
紀書房、2021年2月11日発行

2020年初にCOVID-19の世界的な流行が始まり、調査行が制限される中、マルチスピーシーズ  
人類学研究会では、8回にわたって、コロナ新型コロナウイルス感染症をめぐる、対談形式で研究会  
を開催し、その記録をまとめて出版刊行した。本書に収録されている対談は、以下のとおりであ  
る。

- TALK 01 奥野克巳 × 近藤祉秋 「ウイルスは人と動物の「あいだ」に生成する」  
TALK 02 逆巻しとね × 尾崎日菜子 「接触と隔離の「あいだ」を考える」  
TALK 03 吉村萬壱 × 上妻世海 「私と国の「あいだ」を/で問い直す」  
TALK 04 清水高志 × 甲田烈 「既知と未知の「あいだ」の政治」  
TALK 05 松本卓也 × 東畑開人 「心と身体の「あいだ」を考える」  
TALK 06 山川冬樹 × 村山悟郎 「隔離され、画像化された二つの「顔」、その「あいだ」で」  
TALK 07 辻村伸雄 × 石倉敏明 「歴史と神話の「あいだ」の実践」  
TALK 08 塚原東吾 × 平田周 「グローバルとローカルの来たるべき「あいだ」へ」

奥野克巳・近藤祉秋・ナターシャ・ファイン共編『モア・ザン・ヒューマン マルチスピーシーズ人類学と環境人文学』以文社、2021年9月15日発行

2020年度に、マルチスピーシーズ人類学だけでなく、環境人文学を含めて、国内外の9名の研究者たちにインタビューを行った。その記録を含め、まとめて出版した。以下に、本書の内容を示す。

序論 モア・ザン・ヒューマン 人新世の時代におけるマルチスピーシーズ民族誌と環境人文学（奥野克巳）

第1章 インド中部ヒマラヤの種を超えた関係性（ラディカ・ゴヴィンドラジャン／宮本万里）

第2章 工業型畜産における人間-動物の労働（アレックス・ブランシェット／吉田真理子）

第3章 人間-動物関係をサル視点から見る（ジョン・ナイト／合原織部）

総論（奥野克巳・近藤祉秋・大石友子・中江太一）

第4章 モンゴルの医療、マルチスピーシーズ・ストーリーテリング、マルチモーダル人類学（ナターシャ・ファイン／村津蘭）

第5章 森の思考を聞き取る人類学（エドゥアルド・コーン／近藤宏）

第6章 想像力を駆使し、可能性の彼方に人類学を連れ出そう（アナンド・パンディアン／山田祥子）

総論（奥野克巳・近藤祉秋・大石友子・中江太一）

第7章 外臓と共異体の人類学（石倉敏明／唐澤太輔）

第8章 エコクリティシズムのアクチュアリティ（結城正美／江川あゆみ）

第9章 仏教哲学の真源を再構築する（清水高志／師茂樹）

総論（奥野克巳・近藤祉秋・大石友子・中江太一）

あとがき マルチスピーシーズ人類学から本書を眺望する（ナターシャ・ファイン）

奥野克巳・シンジルト・MOSA 共編『マンガ版マルチスピーシーズ人類学』以文社、2021年10月31日発行

マルチスピーシーズ研究は、アートやパフォーマンスとの連携によって発展してきた分野であり、その点を意識しつつ、本科研の研究成果として、8人の人類学者によるマルチスピーシーズ民族誌を、マンガという自由闊達な表現によって表現し、刊行した。

序論 マンガとマルチスピーシーズのハイブリッド より闊達な人類学のために（奥野克巳）

第1章 豊穡を占うパンバラム（宮本万里）

第2章 天寿を全うする家畜たち（シンジルト）

第3章 語り合うカスカと動物霊（山口未花子）

第4章 文化キャンプと古老たちの教え（近藤祉秋）

第5章 ブタを探して（近藤宏）

第6章 富を生み出すヤマアラシの胃石（奥野克巳）

第7章 人体に棲まうマラリア原虫／ロア糸状虫（大石高典）

第8章 金華山「殺猿事件」の顛末（島田将喜）

あとがき（シンジルト）

マンガができるまで（MOSA）

近藤祉秋、吉田真理子共編『食う、食われる、食いあう マルチスピーシーズ民族誌の思考』青土社、2021年10月20日発行

科学技術論と生業研究の架橋を目指し、「食」をキーワードとしたマルチスピーシーズ民族誌の研究成果を集めた本書は、[種をめぐる科学と政治]班の成果論集として出版された。

序章 人間以上の世界から「食」を考える（近藤祉秋・吉田真理子）

第1章 牡蠣がつくり育てられているとき タスマニアと三重の事例から（吉田真理子）

第2章 乳牛とのダンスレッスン 北十勝の事例から（ポール・ハンセン）

第3章 育種の産業化で人と野菜の対話は失われるのか 日本の種苗会社四社の事例から（河合史子・西川芳昭）

第4章 ウルシと共に生きる 関西の二つの山村地域から（鈴木和歌奈）

第5章 破壊された森とヤマアラシの生 マレーシアの事例から（奥野克巳）

第6章 嗅ぎあう世界の狩猟と獣害 九州山地の事例から（近藤祉秋・合原織部・福本純子）

あとがき 「食席」に関係づけること（吉田真理子・近藤祉秋）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計68件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 86(1)
2. 論文標題 序（特集 マルチスピーシーズ民族誌の眺望：多種の絡まり合いから見る世界）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 44-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.1_044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 86(1)
2. 論文標題 内陸アラスカ先住民の世界と「刹那的な絡まりあい」 人新世における自然 = 文化批評としてのマルチスピーシーズ民族誌	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 96-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.1_096	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 86(3)
2. 論文標題 危機の「予言」が生み出す異種集合体 内陸アラスカ先住民の過去回帰言説を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 417-436
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.3_417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大村敬一	4. 巻 86(1)
2. 論文標題 世界生成のシステムのエンジン イヌイトと近代の存在論の比較からみる存在論の機能	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 57-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.1_057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大石高典	4. 巻 86(1)
2. 論文標題 媒介者としてのハチ 人=ハチ関係からポリネーションの人類学へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 76-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.86.1_076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 48(7)
2. 論文標題 「人間以上」の世界の病原体 多種の生と死をめぐるポストヒューマニティーズ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 207-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 アニミズムを再起動する：インゴルド、ウィラースレフ、宮沢賢治と、人間と非人間の「間」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 185-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 ぬいぐるみとの対話 アニミズム、身体の内と外から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 158-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 518
2. 論文標題 「人間」と「人間以外」を繋ぐアニミズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 114-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤宏	4. 巻 85(3)
2. 論文標題 ドムスの隙間から見る関係性の関係 パナマ東部先住民エンベラのブタ飼育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 416-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本万里	4. 巻 -
2. 論文標題 動物の生死と人類: 屠畜と肉食の文化人類学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西尾宇広 (編著) 『生命の経済』	6. 最初と最後の頁 119-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mari Miyamoto	4. 巻 10
2. 論文標題 Satoshi Yokoyama, Jun Matsumoto, Hitoshi Araki (eds.) Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia.	6. 最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 宮本万里	4. 巻 -
2. 論文標題 剥き出しの屠りと匿名的な屠畜者たち 現代ブータンにみる屠畜規制と拡大する放生実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田中雅一・石井美保・山本達也（編著）『インド・剥き出しの世界』	6. 最初と最後の頁 259-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kondo, Shiaki and Heather A. Swanson	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 鮭鱒論 (salmon trout theory) and the politics of non-Western academic terms	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Sociological Review	6. 最初と最後の頁 435-451
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0038026120905492	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大石高典	4. 巻 92
2. 論文標題 カメルーンのパカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理学ワールド	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大石高典	4. 巻 -
2. 論文標題 センザンコウの肉と鱗	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 絶滅危惧種を喰らう	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石高典	4. 巻 32
2. 論文標題 雑草になった皇帝ボカサー—南米原産のヒマワリヒヨドリと中部アフリカ近現代史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 バイオストーリー	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 -
2. 論文標題 絡まり合う生命の森の新参者 ボルネオ島の熱帯雨林とプラン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『もの人類学2』	6. 最初と最後の頁 87-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 シンジルト	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 牧畜民の集団観研究序説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究	6. 最初と最後の頁 1 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 シンジルト	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 ニエディの民族誌：チベット牧畜社会における集団観の動態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究	6. 最初と最後の頁 96-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Katsumi Okuno, Tetsu Ichikawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Oil Palm Plantations and Bezoar Stones: An Ethnographic Sketch of Human-Nature Interactions in Sarawak	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Anthropogenic Tropical Forests: Human-Nature Interfaces on the Plantation Frontier.	6. 最初と最後の頁 479-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 1
2. 論文標題 人類学の現在、絡まりあう種たち、不安定な「種」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 4-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 51(4)
2. 論文標題 共異体 でワルツを踊るネコと写真家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 147-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 2019.4.
2. 論文標題 考える、生きる 『森は考える』と人類学のこれから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田研一	4. 巻 46(7)
2. 論文標題 大自然の歳時記-石牟礼道子の他者論的転回	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 107-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北條勝貴	4. 巻 46(16)
2. 論文標題 異類の語る仏教伝来 『豊後国風土記』 頸峯地名起源譚の背景を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 339-355
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 シンジルト	4. 巻 1
2. 論文標題 愛しそして喰う：中国南部の犬肉食の民族誌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 96-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 1
2. 論文標題 犬・牛・イルカ：現代台湾の肉食タブー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 107-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 142
2. 論文標題 蟹と蛇：日本、東南亜和東亜之洪水和地震の神話与伝説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山東大学 民俗研究	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 70(1067)
2. 論文標題 アートと人類学の地殻変動 (特集 アートと人類学) : (人類学者の視点 人類学におけるイメージと表現)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 1
2. 論文標題 食と芸術についてのノート 第一回 春とシシ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 mahora	6. 最初と最後の頁 54-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 1
2. 論文標題 複数種世界で食べること：私たちは一度も単独種ではなかった	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 46-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 1
2. 論文標題 食のコスモロジー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明日の収穫 2017-2018	6. 最初と最後の頁 45-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本万理	4. 巻 24
2. 論文標題 現代ブータンにみる高地民と牧畜民：屠畜と稲作、移動をめぐる集団の境界づけとその動態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態人類学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤宏	4. 巻 1
2. 論文標題 ブタをめぐる視点の形成：パナマ東部先住民エンペラの肉食と植民地史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 68-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口未花子	4. 巻 51(4)
2. 論文標題 カメラを持った猟師	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 157-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Natasha Fijn	4. 巻 1
2. 論文標題 Multispecies Anthropology in Antipodes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 149-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuyoshi Sugawara	4. 巻 99
2. 論文標題 On the G ui Experiences of 'Being Hunted': Analysis of Oral Discourses on the Man-Killing by Lions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SENRI ETHNOLOGICAL STUDIES	6. 最初と最後の頁 65-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋・合原織部	4. 巻 84(6)
2. 論文標題 ジビエ販売と狩猟の今昔 宮崎県西米良村の事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 1
2. 論文標題 マルチスピーシーズ人類学の実験と諸系譜	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 126-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 28
2. 論文標題 人新世の北方漁業史：変わり続ける環境と社会に生きる北方民族	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 28
2. 論文標題 内陸アラスカ・クスコクィム川上流域におけるサケ漁撈史と現代的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 7-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大村敬一	4. 巻 -
2. 論文標題 社会性の条件としてのトラウマ：イヌイトの子どもへのからかいを通じた他者からの呼びかけ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田中雅一・松嶋健（編）『トラウマを生きる』	6. 最初と最後の頁 173-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Omura, Keiichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Maps in Action: Quotidian Politics through Boundary Translational Matrix for World Multiple in Contemporary Inuit Everyday Life.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Keiichi Omura, Atsuro Morita, Shiho Satsuka and Grant Otsuki eds., The World Multiple: The Quotidian Politics of Knowing and Generating Entangled Worlds. Routledge	6. 最初と最後の頁 68-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する



1. 著者名 Omura, Keiichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Preface and Acknowledgement	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Keiichi Omura, Atsuro Morita, Shiho Satsuka and Grant Otsuki eds., The World Multiple: The Quotidian Politics of Knowing and Generating Entangled Worlds. Routledge	6. 最初と最後の頁 xiv-xviii
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Grant Otsuki, Shiho Satsuka, Keiichi Omura, and Atsuro Morita	4. 巻 -
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Keiichi Omura, Atsuro Morita, Shiho Satsuka and Grant Otsuki eds., The World Multiple: The Quotidian Politics of Knowing and Generating Entangled Worlds. Routledge	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大石高典	4. 巻 24
2. 論文標題 熱帯狩猟採集民社会における社会的存在としての犬 カメルーンのパカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係とトレーニング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態人類学会ニュースレター	6. 最初と最後の頁 25 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石高典	4. 巻 84(6)
2. 論文標題 野生鳥獣肉の持続的な消費: 日本の課題をグローバルにとらえ返す	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 11
2. 論文標題 イヌはいかに人間の言うことを理解するのか—マルチスピーシーズ民族誌の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 野田研一・山本洋平・森田系太郎(編)『環境人文学11 他者としての自然』	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野克巳	4. 巻 45-22
2. 論文標題 明るい人新世、暗い人新世--マルチスピーシーズ民族誌から眺める	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 33
2. 論文標題 石油時代のアラスカ先住民社会：自然・人・産業	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 寒地技術論文・報告集	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 18
2. 論文標題 騎馬鷹狩文化の起源を求めて：アルタイ山脈に暮らすカザフ遊牧民とイーグルハンターの民族誌(エスノグラフィ)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 -
2. 論文標題 モンゴル遊牧民のヒューマン・エコロジー：アルタイ山脈における日帰り放牧の行動分析とアクトグラフの有効性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 18
2. 論文標題 北アジアの遊牧文明をささえた伝統知と環境共生レジリエンスの学際研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高梨学術奨励基金年報 平成28年度研究成果概要報告	6. 最初と最後の頁 344-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soma, Takuya., and Schlecht, Eva	4. 巻 vol.8 (no.3)
2. 論文標題 The relevance of herders' local ecological knowledge on coping with livestock losses during harsh winters in western Mongolia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pastoralism Research, Policy and Practice	6. 最初と最後の頁 344-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相馬拓也	4. 巻 vol.12 (no.2)
2. 論文標題 ユキヒョウとモンゴル遊牧民のコンフリクト：オーラルヒストリーで読み解く目撃・遭遇事故と家畜被害	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-Journal GEO	6. 最初と最後の頁 217-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田仁史	4. 巻 -
2. 論文標題 デスコラのアニミズム論と逆Z形 of 精神史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 秋道智彌 (編) 『交錯する世界 自然と文化の脱構築』	6. 最初と最後の頁 265-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 45-13
2. 論文標題 可食性の創発 : 築地市場と食の人類学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 235-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石倉敏明	4. 巻 -
2. 論文標題 コンポストの夢	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 場所、芸術、意識 (明治大学 <総合芸術系> 創設記念論集)	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OISHI Takanori	4. 巻 -
2. 論文標題 Sustaining forest livelihoods in an era of climate change: Dialogue beyond 'participation' and 'community' arguments	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kirikoshi, H., Matsunami, Y., Takeuchi, S., Midorikawa, N. ed. Frontiers of African Studies: Proceedings of the ASC-TUFS 'Kick-off' Symposium.	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田未寿、今北哲也、野間直彦、島上元子、増田和也、中西康介、鈴木玲治、大石高典	4. 巻 23
2. 論文標題 滋賀県高島市のホトラ山	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生態人類学会ニュースレター	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大石高典	4. 巻 157
2. 論文標題 消費の視点から狩猟を捉えなおす	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugawara, Kazuyoshi	4. 巻 61 (2)
2. 論文標題 A theory of 'animal borders': Thoughts and practices toward non-human animals among the G ui hunter-gatherers.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Analysis	6. 最初と最後の頁 100-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Natasha Fijn, Marcus Baynes-Rock	4. 巻 46-2
2. 論文標題 A Social Ecology of Stingless Bees.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Human Ecology	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大村敬一	4. 巻 45-4
2. 論文標題 絶滅の人類学：イヌイトの「大地」の限界条件から「アンソロポシオン」時代の人類学を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 228-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Omura, Keiichi	4. 巻 -
2. 論文標題 The Ontology of Feeling: The Evolutionary Basis of 'Natural Institutions'	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Inuit Extended-family Groups. In K. Kawai ed., Institutions: The Evolution of Human Societies. Kyoto and Melbourne: Kyoto University Press & Trans Pacific Press	6. 最初と最後の頁 327-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大村敬一	4. 巻 45-14
2. 論文標題 人類でなくなる朝にむかって：能動的な受動性が拓くおぞましくも美しい地平	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 194-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大村敬一	4. 巻 45-22
2. 論文標題 宇宙をかき乱す世界の肥やし：カナダ・イヌイトの先住民運動から考えるアンソロポシオン状況での人類の未来	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 180-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 奥野克巳
2. 発表標題 種から生命のあるがままへ
3. 学会等名 日本記号学会第41回大会「自然と文化のあいだ 「生命」を問い直す vol.2.」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下道基行・石倉敏明・川瀬慈・中村史子・岡田正
2. 発表標題 「Cosmo- Eggs   宇宙の卵」（ヴェネツィア・ビエンナーレ2019日本館）：アートと人類学の交点から考える
3. 学会等名 民族藝術学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 アニミズムの主体 / 客体論：人類学と仏教学・比較思想の対話から
3. 学会等名 第54回日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 部分的につながりあう身体のアニミズム：マルチスピーシーズ人類学から考える
3. 学会等名 第54回日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野克巳
2. 発表標題 アニミズム、朕兆未分已前たる：タイラーからインゴルド、宮沢賢治へ
3. 学会等名 第54回日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 内陸アラスカのサケ漁撈史と現代的課題：科学人類学と狩猟採集民研究のはざままで
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯塚宜子、園田浩司、田中文菜、大石高典
2. 発表標題 人類学の知を子どもと共有するために 狩猟採集民バカ・ピグミーに学ぶワークショップを通して
3. 学会等名 日本環境教育学会・第30回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石高典
2. 発表標題 犬との関わりからみたアフリカ社会：カメルーン東南部の狩猟採集民と農耕民の比較から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 シンジルト
2. 発表標題 狗權でも人権でもない：中国玉林犬肉祭のポリティクス
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitoshi Yamada
2. 発表標題 Crab and Serpent: Tohoku Legends of Flood and Earthquake in Comparative Perspective.
3. 学会等名 12th Annual International Conference on Comparative Mythology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石倉敏明
2. 発表標題 「朽ちる肉」への問い：「シシ」と「ムシ」から再考する東北日本の種間宇宙論
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Ishikura
2. 発表標題 Living Practice: Distilling Local Knowledge of Cohabitation
3. 学会等名 International Conference Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Ishikura
2. 発表標題 Climbing Visible / Invisible Mountains
3. 学会等名 野根莖高山塾：藝術家三路會師論壇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本万理
2. 発表標題 越境する牛の屠り：現代ブータンにおける屠畜の産業化と宗教実践
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mari Miyamoto
2. 発表標題 "Politics of Meat and Slaughterhouse in Northeast India and the Himalayas"
3. 学会等名 25th European Conference on South Asian Studies (ECSAS) (國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤宏
2. 発表標題 ブタをめぐる生政治と死政治：先住民エンベラによるブタ飼育に見る多層的関係
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 獣肉の『ジビエ』化：九州山地におけるmicrobiopolitics
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiaki Kondo
2. 発表標題 On Athabascan Visions for Provisions: Culture Camp and Education for Food Security in Interior Alaska
3. 学会等名 12th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiaki Kondo
2. 発表標題 Gotta Go and Live!: Immobility and Foraging Ways of Life in Interior Alaska
3. 学会等名 Tohoku Forum for Creativity "Northern Modes of Foraging and Domestication as an Interaction among Humans, Animals and Geography" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiichi Omura
2. 発表標題 Life-course as an Autopoietic System: Considering Mechanisms of Social Reproduction in Inuit Shared Care-giving for Children and Elders
3. 学会等名 CHAGSXII P29 "Caring systems for the aged within the framework of life-courses (stages of life) among hunter-gatherer communities," Universiti Sains Malaysia. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FONGNZOSSIE FEDOUNG Evariste, OISHI Takanori, NGANSOP Marlene
2. 発表標題 Assessing the influence of education on plant-based traditional hunting knowledge among Baka hunter gatherers in East Cameroon
3. 学会等名 The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 OISHI Takanori, MVETUMBO Moise, FEDUNG Evariste
2. 発表標題 Caring dogs for hunting among the Baka hunter-gatherers of southeastern Cameroon
3. 学会等名 The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥野克巳
2. 発表標題 ヤマアラシと人とものをめぐるコンタクト・ゾーン サラワクにおける複数種のランドスケープ
3. 学会等名 第51回日本文化人類学会研究大会分科会「他種『とともに生きる』ことの民族誌 マルチスピーシーズ人類学の展望と課題」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 共に住まうこと：内陸アラスカにおける鳥と人の刹那的な絡まり合い
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kondo Shiaki
2. 発表標題 Multispecies Engineers: Politics of (Un)Making Fishing Places in Interior Alaska
3. 学会等名 9th International Congress on Arctic Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 ワタリガラスの犬肉食：神話の生態学的解釈をめぐって
3. 学会等名 早稲田文化人類学会第20回研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 生業と伝統食文化の継承：北海道とアラスカの比較から
3. 学会等名 日本食生活学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kondo Shiaki
2. 発表標題 Culture Camps: Regional Cooperation for Indigenous Education in Alaska
3. 学会等名 8th Pacific Rim Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 石油時代のアラスカ先住民社会：自然・人・産業
3. 学会等名 第33回寒地技術シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kondo Shiaki
2. 発表標題 Multi-Keystone-Species Ethnography: Anthropocene and Salmon-Human Entanglements in Alaska
3. 学会等名 International Symposium on Environment, Development and International Relations in the Arctic (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kondo Shiaki
2. 発表標題 Knowing Salmon: Toward a Collaboration between Anthropology and Conservation Ecology.
3. 学会等名 5th International Symposium for Arctic Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木和歌奈
2. 発表標題 細胞が作り出す「ニッチ」再生医療プロジェクトの事例から
3. 学会等名 51回文化人類学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 ユキヒョウの民俗学：希少動物との共存をめぐる西部モンゴル遊牧民の民間伝承
3. 学会等名 日本文化人類学会 2017年度学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 アルタイ山脈のユキヒョウと遊牧民：生態観察、獣害対策、民俗伝承の複合型生物誌の研究
3. 学会等名 雲南懇話会（第42回）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 鷲使い“イーグルハンター”の民族誌：カザフ騎馬鷹狩文化をめぐる文化遺産保護とイヌワシ保全生態の現状と展望
3. 学会等名 ヒトと動物の関係学会 第24回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相馬拓也
2. 発表標題 アルタイ山脈の在来カザフ語地名と土地利用観の民族地理学
3. 学会等名 日本地理学会 春季学術大会2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kondo Hiroshi
2. 発表標題 El regalo y el veneno: una consideraci&ocute;n de la sociabilidad en los Embera panama y concepto de “ le don ” por Marcel Mauss.
3. 学会等名 the XI Sesquiannual Conference of SALSА (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miyamoto Mari
2. 発表標題 Religion and slaughter in Bhutan and Northeast India: Increasing rituals and cattle on the borders
3. 学会等名 Locating Northeast India
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口未花子
2. 発表標題 先住民カスカの生業を通じた変化と現状
3. 学会等名 平成29年度日本カナダ学会第42回大会一般公開国際シンポジウム「カナダ先住民の歴史と現状」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅原和孝
2. 発表標題 境界を歩く犬たち：人類学と文学のはざま
3. 学会等名 生態人類学会研究大会（第23回）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Omura, Keiichi
2. 発表標題 The Earth Multiple: Toward Sympoietic Development of Multiple Worlds in Post-Anthropocene.
3. 学会等名 International Symposium on Environment, Development and International Relations in the Arctic. Session 3: Arctic Societies in Anthropocene. (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 奥野克巳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 370
3. 書名 絡まり合う生命 人間を超えた人類学	

1. 著者名 奥野克巳・清水高志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 342
3. 書名 今日のアニミズム	

1. 著者名 奥野克巳、近藤祉秋、ナターシャ・ファイン、宮本万里、合原織部、近藤宏、石倉敏明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 305
3. 書名 モア・ザン・ヒューマン—マルチスピーシーズ人類学と環境人文学	

1. 著者名 奥野克巳、シンジルト、近藤祉秋、宮本万里、近藤宏、大石高典、島田将喜、山口未花子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 339
3. 書名 マンガ版マルチスピーシーズ人類学	

1. 著者名 近藤祉秋、奥野克巳、鈴木和歌奈、合原織部	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 282
3. 書名 食う、食われる、食いあう マルチスピーシーズ民族誌の思考	

1. 著者名 奥野克巳、近藤祉秋、シンジルト、石倉敏明、野田研一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 181
3. 書名 たぐい vol.4	

1. 著者名 野田研一、赤坂憲雄編、奥野克巳著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 196
3. 書名 文学の環境を探る (フィールド科学の入口)	

1. 著者名 シンジルト、地田 徹朗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋外国語大学出版会	5. 総ページ数 251
3. 書名 牧畜を人文学する	

1. 著者名 シンジルト	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 オイラトの民族誌：内陸アジア牧畜社会におけるエコロジーとエスニシティ	

1. 著者名 藤野陽平、奈良雅史、近藤祉秋（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 モノとメディアの人類学	

1. 著者名 浜田明範、西真如、近藤祉秋、吉田真理子（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 369
3. 書名 新型コロナウイルス感染症と人類学    パンデミックとともに考える	

1. 著者名 奥野克巳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が教わったこと	

1. 著者名 奥野克巳・近藤祉秋編、石倉敏明、シンジルト他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 たぐい vol.3	

1. 著者名 奥野克巳・近藤祉秋・辻陽介編、石倉敏明他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 432
3. 書名 コロナ禍をどう読むか 16の知性による8つの対話	

1. 著者名 奥野克巳、MOSA	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本実業出版社	5. 総ページ数 248
3. 書名 マンガ人類学講義 ボルネオの森の民には、なぜ感謝も反省も所有もないのか	

1. 著者名 奥野克巳・吉村萬吉・伊藤亜紗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 187
3. 書名 ひび割れた日常	

1. 著者名 大村敬一、湖中真哉編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 「人新世」時代の文化人類学	

1. 著者名 大石高典、近藤祉秋、池田光穂（共編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 犬からみた人類史	

1. 著者名 奥野克巳・近藤祉秋編、石倉敏明、大村敬一、シンジルト他著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 159
3. 書名 たぐいVol.2.	

1. 著者名 Motoyuki Shitamichi, Taro Yasuno, Toshiaki Ishikura, Fuminori Nousaku, Hiroyuki Hattori	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Case Publishing	5. 総ページ数 158
3. 書名 Cosmo-Eggs   宇宙の卵 (Catalog of the 58th Venice Biennale International Art Exhibition Japan Pavilion, English edition)	

1. 著者名 菅豊、北條勝貴	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦	

1. 著者名 クロフト、ダレン・P、リチャード・ジェームス、ジェンス・クラウス著、島田将喜訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 222
3. 書名 動物の社会ネットワーク分析入門	

1. 著者名 奥野克巳・石倉敏明・大村敬一・近藤宏・近藤祉秋	4. 発行年 2018年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 223
3. 書名 Lexicon 現代人類学	

1. 著者名 相馬拓也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 鷲使い(イーグルハンター)の民族誌: モンゴル西部カザフ騎馬鷹狩文化の民族鳥類学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	シン ジルト  (Chimedyn Shinjilt)  (00361858)	熊本大学・大学院人文社会科学部(文)・教授   (17401)	
研究分担者	近藤 祉秋  (Kondo Shiaki)  (80779273)	神戸大学・国際文化学研究所・講師   (14501)	
研究分担者	相馬 拓也  (Soma Takuya)  (60779114)	早稲田大学・高等研究所・講師(任期付)   (32689)	削除: 2018年7月4日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------